

3年ぶり行動制限ない夏休み

川遊びの事故防げ

川遊びシーズンが本格化する夏休みを迎え、水難事故が多発している関市、美濃市を管轄する関署などが21日、事故防止に向けた広報活動の出発式を美濃市の関署美濃交番で行った。今年は新型コロナウイルス感染拡大関連では3年ぶりに行動制限のない夏休み。川遊びを楽しむ行楽客の増加が予想されるため、警察、消防などの関係機関が連携して啓発活動を展開する方針などを確認した。

(佐名妙予)



行楽客に川の危険性について伝える署員ら＝美濃市前野、長良川河川敷

関署や中濃消防、行楽客に啓発



休日は大勢の行楽客でにぎわう美濃市前野の長良川。同所は全国的にも事故が多い＝7月2日

出発式には、関署、県警地域課、中濃消防組合美濃消防署、県美濃土木事務所、関、美濃両市などの関係者ら約20人が出席。美濃市前野と関市池尻の長良川で、行楽客にライフジャケットの着用などを呼びかけた。美濃市では、ドローン事業を手がける「ROBOZ(ロボッツ)」＝恵那市＝の協

力を得て、ドローンを使った広報も行った。関署によると、今年は例年より多いペースで水難事故が発生している。管内の過去10年間の平均は年9件、死者4人ほどだが、今年

力を得て、ドローンを使った広報も行った。関署によると、今年は例年より多いペースで水難事故が発生している。管内の過去10年間の平均は年9件、死者4人ほどだが、今年

し、死者は2人に上る。出発式で成原健司副署長は「シーズンを前に、すでに例年を上回る事故が起きている。事故が減るよう注意喚起してほしい」と呼びかけた。両市を管轄する中濃消防

組合の美濃消防署では、5月以降は毎週末、消防車両を出動させ、広報活動に取り組んでいる。児山昭二署長は「各機関が相互に協力して啓発することに意義がある。今後も警戒を続ける」と話した。